

鉄鋼概況

2014年度国内粗鋼生産量 若干減少の見通し

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

10月末の薄板3品の国内在庫率は2.08カ月で適正水準の2カ月に接近し、市中では酸洗鋼板を中心に歯抜けサイズも増加している。11月の粗鋼生産量は前年同月比8.9%増と3カ月連続で前年同月実績を上回り、このペースが12月も継続すれば、2008年以来5年ぶりの1億1千万トン超えとなる。11月の全鉄鋼輸出は東南アジア市場の軟調さを反映し前年同月比4.5%減と3カ月連続の前年割れで、輸入は中国・NIE'S向けの増加などにより3カ月ぶりのプラスで前年同月比11.0%の大幅増となった。鉄鋼連盟発表の見通しによると、2013年度の全国粗鋼生産量は3年ぶりに1億1,000万トンを上回る見込みだが、2014年度は消費税の影響などにより2013年度を若干下回ると予測されている。新日鉄住金はアルセロール・ミッタルと共同で独ティッセン・クルップの米アラバマ州カルバートの薄板工場を買収すると発表した。11月の世界(65カ国)粗鋼生産量は前年同月比3.6%増と14カ月連続で前年同月実績を上回ったが、日産量は前月比1.8%減と2カ月連続で減少した。

~~~~~

### ◆薄板流通在庫、歯抜けサイズ増加

鉄鋼連盟が発表した10月末の普通鋼鋼材国内在庫(メーカー・問屋段階)は、前月末比7万7,000トン、1.4%増の560万7,000トンと2カ月ぶりに増加した。在庫率は前月末比1.5ポイントとわずかに増加して135.0%となった。10月末の普通鋼鋼材流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、4万7,000トン、1.8%減の262万2,000トンと2カ月連続して減少した。10月の販売量は前月比9万2,000トン、3.4%増の287万2,000トンと3カ月連続しての増となり、その結果10月末の在庫率は前月末比5.0ポイント低下して94.2%と2カ月連続して100%台を割り込んだ。

主要鋼材の在庫状況をみると、10月末の薄板3品(熱延・冷延・表面処理鋼板)の国内在庫(メーカー・問屋・コイルセンターの合計)は、前月末比横這いの387万6,000トンとなった。自動車や建材向けなどの内需増で問屋とコイルセンターの在庫調整は進んだものの、台風の影響で製鉄所からの出荷停滞からメーカー在庫が増加した。在庫率は2.08カ月と、前月末(2.13カ月)から適正水準とされる2カ月にさらに接近した。市中では酸洗鋼板を中心に歯抜けサイズも増加している。

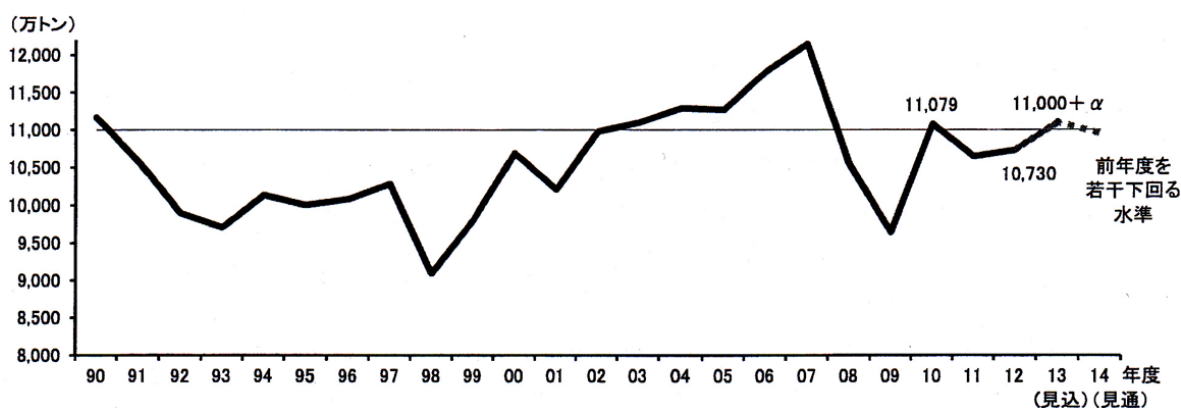
11月末のH形鋼の流通在庫は、新日鉄住金系建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると、前月末比ほぼ横這いの17万9,700トンとなった。1日当たりの出荷量は5,300トンと2008年9月以来の高水準である。一方で台風によるミル出荷のずれなどから入庫水準も高く、在庫は横這いで推移した。在庫率は1.70カ月で、一部サイズでは歯抜けが生じ需給は引き締まった状態となっている。

鉄鋼連盟が発表した11月の粗鋼生産量は、前年同月比8.9%増の926万3,000トンとなり、3カ月連続で前年同月実績を上回った。建設関連に加え、自動車など製造業向け需要も好調に推移したことで高炉、電炉メーカーともに高水準な生産活動が続いた。11月の1

日当たりの生産量は約30万9,000トンで、前月に比べ約2,000トン増加した。炉別の生産量は、転炉鋼が前年同月比8.8%増の709万6,000トン、電炉鋼が同9.3%増の216万7,000トンで、それぞれ3カ月、4カ月連続の増加となった。鋼種別では、普通鋼が同5.5%増の718万4,000トン、特殊鋼が同22.8%増の207万9,000トンで、特殊鋼が大幅に増加した。1～11月の累計生産量は1億122万トンとなり、前年同期比で2.6%上回った。11月の生産ペースが12月も継続すれば、暦年生産で1億1,080万トンとなる。暦年での1億1千万トン超えは2008年以来5年ぶりである。

財務省が発表した11月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比4.5%減の336万トンとなり3カ月連続の前年割れとなった。高炉大手の成約抑制やタイなど東南アジア市場の軟調さを反映した。前月比では、台風の影響で11月に出荷がずれ込んだケースもあり2.6%増と3カ月ぶりに増加した。一方、全鉄鋼輸入は前年同月比11.0%の大幅増で75万6,000トンと3カ月ぶりに増加した。主要国・地域別輸出では、アジアが前年同月比6.6%減の262万9,000トンと2カ月連続で減少した。このうちASEAN向けが17.6%減の95万3,000トンと、2012年4月以来となる100万トン割れとなった。反面、中国は日系自動車の生産回復などから15.8%増の51万3,000トンと3カ月連続の増加となり、NIE'sも6.2%増の108万8,000トンと7カ月ぶりの増加となった。中東は17.6%減の15万2,000トンと4カ月連続の減、米国は17.9%増の16万5,000トンと2カ月連続の増となった。一方、輸入の内訳はアジアが前年同月比12.3%増の62万5,800トンで、このうち中国は25.6%減の9万9,000トン、NIE'sは24.1%増の49万5,700トンとなった。また、ロシアは71.8%増の3万9,000トンとなった。

図－1 国内粗鋼生産の推移



#### ◆2014年度粗鋼，若干減に——鉄連見込み

鉄鋼連盟は、2013年度の全国粗鋼生産量は3年ぶりに1億1,000万トンを上回る見込みだが、2014年度は2013年度を若干下回るとの見通しを発表した。

鉄連の見通しによると、2013年度の日本経済は年初の10兆円規模の緊急経済対策効果に加え、円高修正による企業収益の改善などを受けて内需を中心に回復軌道をたどり、年度後半は消費増税前の駆け込み需要による個人消費や住宅投資の拡大などから回復のペースは拡大しているとしている。その結果、鉄鋼内需は公共投資の増加、非製造業や住宅を中心とした建設投資の拡大、完成車生産の増加など内需主導で回復を強め、粗鋼生産は3年ぶりに1億1千万トンを上回るとみられるとしている。2014年度の経済は消費増税に伴

う駆け込み需要の反動減により個人消費や住宅投資の落ち込みは避けられないものの、企業収益改善による設備投資の回復、米国を中心とした海外経済の持ち直し等による輸出の回復などから、景気はプラス成長を維持するとみる。2014年度の鉄鋼内需は、建設部門では消費増税の影響から住宅投資の落ち込みは避けられず、経済対策による公共事業の効果も前年度を下回るとみられるとしている。製造業部門は、造船が底入れに向かい、国内の設備投資関連も持ち直しが期待されるものの、最大ウエイトの自動車については消費増税等の影響が大きく、全体では前年度を下回るもと想定している。この結果、2014年度の粗鋼生産は、海外市場等が大きな変動要因となるが、住宅投資、自動車販売など個人消費関連需要の落ち込みを主因に、前年度を若干下回る見通しとしている。

#### ◆新日鉄住金、ティッセン米工場を買収

新日鉄住金は11月30日、アルセロール・ミッタル（AM）と共同で独ティッセン・クルップ（TK）の米アラバマ州カルバートの薄板工場を買収すると発表した。買収価格は15億5千万ドル（約1,550億円）で、新日鉄住金とAMは折半出資する。2014年央にも売買は完了する見込みである。TKは売却後も2019年までアラバマ工場へブラジルの高炉事業（アトランティコ製鉄：CSA）から半製品・スラブを年間200万トン供給する。また、TK側にはスラブ供給契約を3年間延長できる権利も付与された。

アラバマ工場は、熱延ミル（年産530万トン）、連続酸洗ライン（110万トン）、酸洗冷延ミル（250万トン）、連続焼鈍ライン（60万トン）各1基と熔融亜鉛めっきライン（計140万トン）を有しており、自動車用鋼板を生産できる世界最新鋭の工場と評価されていた。

新日鉄住金とAMは既に冷延合弁のINテックやINコートで米市場における車用鋼板のブランドを築いている。アラバマ工場をこの延長線上の合弁事業と位置付け、米南部にある日系自動車メーカーの生産拠点に近い地の利を活かし、収益化を図るとしている。AMはアラバマ工場について「1年でEBITDA（利払い・税引き・償却前利益）、2年でフリーキャッシュフローは黒字化する」（アディチャ・ミッタル CFO）としている。

#### ◆11月世界粗鋼生産、14カ月連続で前年水準比増

世界鉄鋼協会（WSA）のまとめによると、11月の世界（65カ国）の粗鋼生産量は前年同月比3.6%増の1億2,736万トンとなり、伸び率はやや鈍化した。14カ月連続で前年同月実績を上回った。前月比では5.0%減と3カ月ぶりに減少した。中国は3カ月連続で減少し、中国以外も3カ月ぶりに減った。11月の65カ国の日産量は、前月比1.8%減と2カ月連続で減少した。中国は3.3%減と2カ月連続減の203万トンで、1月を下回り本年最低の水準となった。中国以外は前月比0.4%減で2カ月連続で減った。新興国の日産量は、韓国が前月比2.3%減と3カ月ぶりに減り、インドは微減横這い、ブラジルは6.0%減とともに2カ月連続で減少した。先進国では、EU27は0.7%増、北米は0.1%増、日本は0.5%増とそれぞれ2カ月ぶりに増加した。1～11月の65カ国生産は年率15億8,200万トンと、前年比約6,100万トン多いペースとなっている。また、中国は約7億7,900万トンと同6,200万トン多いペースとなる。 □